

【田んぼの点検】

4月です。いよいよ田植の準備が始まります。これから耕耘、代かきと作業の方が忙しくなるかと思えます。

どんなものでも長年使い続けているといろんなところに不具合が生じてきます。苗を植え付けた後では中々対処しづらいこともあります。作業が始まる前に田んぼの点検をしてみましょう。

【畦畔】

(田んぼに出て畦を歩きながら)

水管理を適正に行うためには畦がしっかりしているか確認しましょう。

カエルや虫は冬眠で畦に孔を掘って冬眠しています。冬眠から目覚めて這い出した後に空洞が出来ています。畦を歩いてみて穴があったり、緩いような感じであれば漏水の原因となる可能性があります。

孔を表土などで詰めたり、畦塗機で畦の塗り直し（施工に際しては散水しながらするのがベター）を行うか、畦シート等で漏水対策を行いましょう。

【用水路】

用水路の目地部に隙間が空いていると不要な水がほ場に入り込んできて適切な水管理が出来なくなります。目地補修を行うことが好ましいですが、応急的にホームセンターで購入した資材を詰めて水路から水が入らないようにしておきましょう。

不具合のあった箇所は記録に残して置いて、稲刈後に補修を行いましょう。

【排水路】

排水路に泥が溜まっていると暗渠吐出口が閉塞したり、水位が上がり排水不良の原因や畦の崩壊につながります。

井手さらいを行うことで土砂や草などを取り除き、しっかり水が流れるようにしまししょう。

【暗渠】

暗渠は長年使っていると排水性が落ちてくることもあります。間の中に土が詰まっていることも考えられますが、排水口が水アカ、草等で閉塞しているため水の流れが悪くなっていることも考えられます。排水口を清掃することで改善できることもあります。

また、水閘を締めているはずなのに水が漏れていたり、開閉装置がうまく上下しない場合は、キャップを外して栓のところに泥が付着していないか確認してください。

また、長年の営農により表土下に耕盤が形成されて排水が困難となっているほ場もあるかと思えます。そういったほ場ではサブソイラーなどで補助暗渠をつくって排水対策を行いましょう。

田植えまでもう少しなので点検によって見つけた不具合に対処する時間も短いかと思えますので、多くは稲刈り後の対応になるかと思えます。

点検結果は記録を付けて（携帯電話やデジカメなどで写真を撮っておくのもいいかも）おいて稲刈後の補修などに活用出来るようにしまししょう。

また、作付中に分かった不具合についても記録しておくようにしまししょう。